

母親の属性については、年齢は高い方が若干選択率が高くなる。職業においては、出産前の職業との関係性は薄く、現在学生または有職であれば（無職に比べて）選択率が低く、専業主婦よりも、仕事を持っている方が育児負担感が低い。これは、先行研究が支持された形である。一方で、求職中であればかなり選択率が高くなっており、希望通り無職（専業主婦）である場合に比べ、就職を希望しながらかなわない場合の負担感が高くなっていることがうかがわれる。

育児ネットワークについては、父の育児参加はあまり関係せず、祖父母と同居していると選択率が下がる。現実的・精神的な手助けを得られるということであろう。また、相談者がある方がいない場合に比べてかなり選択率が下がっており、誰であるかに限らず育児の悩み・不安が相談できる相手が必要であるという常識的な結果が出ている。

次に、具体的な項目ごとに同様の分析を行った結果が表 9～15 である。（ただし、「子どもが病気がちである」は、子どもの病歴など、別の変数を考慮すべきと考えられるため除いた。）

#### 「子育てによる身体の疲れが大きい」

身体的な負担感については、具体的な負担の多寡の他、負担への慣れや精神的な安定性といった別の要因が関係しているようである。

多胎児の場合選択率が 2 倍以上で、多胎児の子育てに身体的負担がかかることがうかがわれる。また、母親の年齢が高い方がやや選択率が高く、母親が年齢があがるほど体力的に厳しいと考えていることによると思われる。

表9 子育ての負担感の回帰分析(子育てによる身体の疲れが大きい)

(第1回調査)

	子育てによる身体の疲れが大きい (N=40,391)		
	B	有意確率	Exp (B)
兄弟ありダミー	-0.038	0.108	0.963
多胎ダミー	0.896	*** 0.000	2.449
第1回時の母親の年齢	0.054	*** 0.000	1.055
出産前学生+有職ダミー	-0.144	*** 0.000	0.866
現在学生+有職ダミー	-0.179	*** 0.000	0.836
現在求職中ダミー	-0.041	0.249	0.960
父=保育担当ダミー	0.046	0.220	1.047
祖父母同居ダミー	-0.275	*** 0.000	0.760
保育外注ダミー	0.211	*** 0.001	1.235
相談者ありダミー	-0.449	*** 0.000	0.638
定数	-1.364	*** 0.000	0.256
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.025		
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.033		

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	子育てによる身体の疲れが大きい (N=35,119)		
	B	有意確率	Exp (B)
兄弟ありダミー	0.004	0.860	1.004
弟妹ありダミー	0.038	0.510	1.038
多胎ダミー	0.723	*** 0.000	2.060
第1回時の母親の年齢	0.052	*** 0.000	1.053
出産前学生+有職ダミー	-0.041	** 0.003	0.960
現在学生+有職ダミー	-0.211	*** 0.000	0.810
現在求職中ダミー	-0.063	0.109	0.939
父=保育担当ダミー	0.016	0.473	1.016
祖父母同居ダミー	-0.247	*** 0.000	0.781
保育外注ダミー	0.133	*** 0.000	1.142
相談者ありダミー	-0.426	*** 0.000	0.653
定数	-1.385	*** 0.000	0.250
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.020		
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.028		

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

母親の職業については、出産前、調査時点とも、身体的負担がより大きいと考えられる有職の方が無職に比べて選択率が低い。身体的負担に慣れているということかもしれない。

社会的ネットワークについては、祖父母が同居している方がかなり選択率が低く、具体的に家事・育児の面で援助を得られていると思われる。しかし、同様の援助でも、保育士・保育ママさんを頼んでいる場合は選択率が高い。出生半年、1年半という段階で、保育士・保育ママさんが主な保育担当者にあがっているケースは少数であるため、より厳しい状態で仕事と家事を両立しているケースであるからかもしれない。

また、精神面とは直接関係しない項目である相談者の有無でも、相談者がいた方が選択率がかかなり選択率が低くなっている。これは、心理的な不安感の緩和が身体面にも関係しているのか、相談できる相手は実際の育児遂行も含んだ全面的な援助者だからかであろう。

### 「子育てで出費がかさむ」

この項目は、子育てに伴う出費の多寡、母親の収入の有無といった、具体的な家計の收支状況が大きく関連しているように思われる。

きょうだい構成については、兄姉、弟妹、多胎、すべてで選択率がかかなり高くなっており、子どもの数が大きく影響していることがわかる。母親の年齢は若い方が、母親自身の収入も低く、父親も若いことが多く家計全体の収入も少ないためか、選択率がやや高い。

職業は、出産前と現在の職業は、学生または有職のケースがやや選択率が低いときもある。第1回時も第2回時も求職中の場合は選択率がかかなり高い。因果関係としては、出費がかさむので職を探しているというところであろう。

表10 子育ての負担感の回帰分析(子育てで出費がかさむ)

(第1回調査)

	子育てで出費がかさむ (N=40,391)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄姉ありダミー	0.456	*** 0.000	1.579	
多胎ダミー	1.218	*** 0.000	3.380	
第1回時の母親の年齢	-0.030	*** 0.000	0.970	
出産前学生+有職ダミー	0.005	0.812	1.005	
現在学生+有職ダミー	-0.158	*** 0.000	0.853	
現在求職中ダミー	0.507	*** 0.000	1.661	
父=保育担当ダミー	0.006	0.884	1.006	
祖父母同居ダミー	-0.079	** 0.004	0.924	
保育外注ダミー	0.581	*** 0.000	1.787	
相談者ありダミー	-0.332	** 0.003	0.718	
定数	0.289	* 0.032	1.335	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.026			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.036			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*\*p<0.01 \*\*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	子育てで出費がかさむ (N=35,119)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄姉ありダミー	0.408	*** 0.000	1.505	
弟妹ありダミー	0.287	*** 0.000	1.333	
多胎ダミー	1.023	*** 0.000	2.781	
第1回時の母親の年齢	-0.032	*** 0.000	0.968	
出産前学生+有職ダミー	-0.031	* 0.043	0.969	
現在学生+有職ダミー	-0.014	0.695	0.986	
現在求職中ダミー	0.601	*** 0.000	1.823	
父=保育担当ダミー	-0.005	0.838	0.995	
祖父母同居ダミー	-0.141	*** 0.000	0.868	
保育外注ダミー	0.326	*** 0.000	1.386	
相談者ありダミー	-0.346	** 0.003	0.707	
定数	-0.005	0.970	0.995	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.025			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.037			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*\*p<0.01 \*\*\*\*p<0.001

育児の社会的ネットワークでは、祖父母と同居している場合は選択率がやや低くなる傾向がある。同居の方が金銭的にゆとりがあるのかどうかは一概には言えないが、祖父母の同居が負担感の引き下げにつながっているようである。保育士・保育ママさんを頼んでいる場合は、選択率が高くなっており、家計にひびいているようである。また、ここでも、金銭的援助とは直接関係ないと思われる相談者の存在が負担感と関係しているという結果が出ている。

「自分の自由な時間が持てない」

この項目は、主観的な要求水準が大きく関係していると思われる。

きょうだい構成では、多胎児では他の項目同様負担感が大きい、兄弟・弟妹がいる場合の方が選択率が低くなっている。「2人目」以降を生もうとした時点で、「自分の自由な時間」に対する要求水準が変わるか、育児に慣れて実際に時間が確保されているということであろうか。

同様に、現時点で有職、第1回に関しては求職中の場合も、選択率が低くなっているが、仕事＝「自分の時間」と捉えているか、「自分の時間」への要求のあり方が無職（専業主婦）と異なっているということであろう。

社会的ネットワークについては、祖父母が同居している場合と保育士・保育ママさんを頼んでいる場合、相談者がいる場合に選択率が下がっており、他者の援助が得られている場合は、自分の時間が実際に確保できるか、心理的に負担感を感じづらくなっているようである。

表11 子育ての負担感の回帰分析(自分の自由な時間が持てない)  
(第1回調査)

	自分の自由な時間が持てない(N=40,391)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	-0.160	*** 0.000	0.852	
多胎ダミー	0.293	*** 0.000	1.341	
第1回時の母親の年齢	0.000	0.843	1.000	
出産前学生+有職ダミー	0.007	0.725	1.007	
現在学生+有職ダミー	-0.152	*** 0.000	0.859	
現在求職中ダミー	-0.104	** 0.003	0.901	
父=保育担当ダミー	0.106	** 0.003	1.112	
祖父母同居ダミー	-0.124	*** 0.000	0.884	
保育外注ダミー	-0.151	* 0.014	0.860	
相談者ありダミー	-0.259	** 0.023	0.772	
定数	0.628	*** 0.000	1.874	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.004			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.006			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	自分の自由な時間が持てない(N=35,119)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	-0.127	*** 0.000	0.880	
弟妹ありダミー	-0.137	** 0.018	0.872	
多胎ダミー	0.509	*** 0.000	1.664	
第1回時の母親の年齢	0.007	** 0.012	1.007	
出産前学生+有職ダミー	0.000	0.987	1.000	
現在学生+有職ダミー	-0.222	*** 0.000	0.801	
現在求職中ダミー	0.022	0.599	1.022	
父=保育担当ダミー	0.042	+ 0.073	1.043	
祖父母同居ダミー	-0.108	*** 0.000	0.897	
保育外注ダミー	-0.245	*** 0.000	0.783	
相談者ありダミー	-0.125	0.289	0.882	
定数	0.777	0.000	2.175	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.010			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.014			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

### 「夫婦で楽しむ時間がない」

この項目も、主観的な要求水準が大きく影響していると思われる。

兄弟がいる場合は、選択率が下がり、多胎、弟妹がいる場合は選択率が上がっている。上の子がいる場合は、育児に慣れているかまたは要求水準自体が下がっているのに対し、下の子（しかもこの時点の弟妹は対象子と年子を意味する）ができた場合は、乳幼児を多く抱えた状態となり、多胎児に近い状態になるということではないだろうか。

母親の年齢が高い方がわずかながら選択率が下がる。若いときに比べて「夫婦の時間」に対して要求がなくなってくるのであろうか。

有意でない場合もあるが、出産前も調査時点も学生または有職である方が選択率が低い傾向がある。仕事＝「自分の時間」という認識の可能性のある前項目とは異なり、仕事を持っていると夫婦の時間が明らかに限られる。にもかかわらず、選択率が下がっているということは、職を持っている場合に、要求水準自体が変化している可能性が示唆される。

父親がふだんの育児を担っている方が選択率が高く、夫婦の時間がともに育児に取られているという感覚があるようである。逆に言えば、父親が協力的でない場合などは、夫婦の時間をもちたいという要求自体が下がっている可能性が考えられる。

社会的ネットワークについては、祖父母が同居している場合と、第1回目に関しては相談者がいる場合は、選択率が低くなっており、「自分の時間が持てない」の場合と同様、他者の援助が得られている場合は、自分の時間が実際に確保できるか、心理的に余裕が持っているようである。

表12 子育ての負担感の回帰分析(夫婦で楽しむ時間がない)

(第1回調査)

	夫婦で楽しむ時間がない (N=40,391)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	-0.201	***	0.000	0.818
多胎ダミー	0.512	***	0.000	1.668
第1回時の母親の年齢	-0.015	***	0.000	0.985
出産前学生+有職ダミー	-0.068	**	0.005	0.934
現在学生+有職ダミー	-0.030		0.352	0.970
現在求職中ダミー	-0.078	+	0.056	0.925
父=保育担当ダミー	0.128	**	0.002	1.137
祖父母同居ダミー	-0.161	***	0.000	0.852
保育外注ダミー	0.024		0.739	1.025
相談者ありダミー	-0.320	**	0.009	0.726
定数	-0.244	+	0.095	0.783
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.005			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.008			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*\*p<0.01 \*\*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	夫婦で楽しむ時間がない (N=35,119)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	-0.130	***	0.000	0.878
弟妹ありダミー	0.235	***	0.000	1.265
多胎ダミー	0.475	***	0.000	1.608
第1回時の母親の年齢	-0.021	***	0.000	0.979
出産前学生+有職ダミー	-0.033	*	0.037	0.967
現在学生+有職ダミー	-0.132	**	0.000	0.876
現在求職中ダミー	-0.052		0.241	0.950
父=保育担当ダミー	0.196	***	0.000	1.217
祖父母同居ダミー	-0.151	***	0.000	0.860
保育外注ダミー	0.017		0.691	1.017
相談者ありダミー	0.159		0.239	1.172
定数	-0.608	***	0.000	0.544
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.008			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.012			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*\*p<0.01 \*\*\*\*p<0.001

### 「仕事が十分できない」

この項目は、仕事がしたいと思っているか否かがそもそも前提として大きく関わっている。つまり、出産前も調査時点でも、母親が無職に比べて学生または有職の場合の選択率が高くなっている。求職中の場合は、選択率がかなり高くなっており、仕事と育児の両立が大きな問題となっていることがうかがえる。

保育士・保育ママさんを頼んでいる場合は、現実問題として母親が仕事をしているためか、選択率が上がっている。

また、第1回では影響はないが、第2回になると、父親の協力と祖父母との同居が負担感を下げていることがわかる。ここでも、相談者がいる場合は選択率が大きく下がっている。

そのほか、兄弟がいる場合や第1回に関しては多胎児の場合に選択率が高くなる他、母親の年齢が高い方がわずかに選択率が高い。

表13 子育ての負担感の回帰分析(仕事が十分できない)

(第1回調査)

	仕事が十分にできない (N=40,391)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	0.103	** 0.003	1.108	
多胎ダミー	0.281	** 0.006	1.324	
第1回時の母親の年齢	0.024	*** 0.000	1.025	
出産前学生+有職ダミー	0.381	*** 0.000	1.464	
現在学生+有職ダミー	0.902	*** 0.000	2.464	
現在求職中ダミー	1.408	*** 0.000	4.090	
父=保育担当ダミー	0.068	0.194	1.071	
祖父母同居ダミー	0.045	0.242	1.046	
保育外注ダミー	0.391	*** 0.000	1.478	
相談者ありダミー	-0.539	*** 0.000	0.583	
定数	-2.967	*** 0.000	0.051	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.049			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.094			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	仕事が十分にできない (N=35,119)			
	B	有意確率	Exp (B)	
兄弟ありダミー	0.099	** 0.002	1.104	
弟妹ありダミー	-0.128	0.134	0.880	
多胎ダミー	0.103	0.319	1.109	
第1回時の母親の年齢	0.020	*** 0.000	1.020	
出産前学生+有職ダミー	0.066	*** 0.000	1.068	
現在学生+有職ダミー	1.516	*** 0.000	4.555	
現在求職中ダミー	1.651	*** 0.000	5.211	
父=保育担当ダミー	-0.150	*** 0.000	0.861	
祖父母同居ダミー	-0.147	*** 0.000	0.864	
保育外注ダミー	0.157	*** 0.000	1.170	
相談者ありダミー	-0.599	*** 0.000	0.549	
定数	-2.406	*** 0.000	0.090	
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.087			
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.145			

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

### 「子育てが大変なことを理解してくれない」

心理的な要素が大きく関わる設問であり、相談者がいる方がいない場合に比べてはるかに選択率が低くなっている。父が保育を担当している方がかなり選択率が低く、子どもの親として父親が協力的であると見なされているか否が、心理的負担感に影響しているという先行研究の知見が裏付けられている。

ただし、他の項目では、負担感を下げる方向に働いていた祖父母の同居が、この項目では、第1回に負担感を助長するように働いており、身近にいながら理解してくれないという感覚を持ちがちであることも示唆される。

表14 子育ての負担感の回帰分析(子育てが大変なことを理解してくれない)  
(第1回調査)

	子育てが大変なことを理解してくれない (N=40,391)		
	B	有意確率	Exp (B)
兄姉ありダミー	0.224	*** 0.000	1.250
多胎ダミー	0.657	*** 0.000	1.930
第1回時の母親の年齢	-0.004	0.465	0.996
出産前学生+有職ダミー	0.010	0.801	1.010
現在学生+有職ダミー	0.008	0.885	1.008
現在求職中ダミー	0.396	*** 0.000	1.486
父=保育担当ダミー	-0.282	*** 0.000	0.754
祖父母同居ダミー	0.332	*** 0.000	1.393
保育外注ダミー	0.288	* 0.013	1.334
相談者ありダミー	-1.934	*** 0.000	0.145
定数	-0.995	*** 0.000	0.370
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.009		
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.023		

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

(第2回調査)

	子育てが大変なことを理解してくれない (N=35,119)		
	B	有意確率	Exp (B)
兄姉ありダミー	0.123	* 0.014	1.130
弟妹ありダミー	0.054	0.634	1.056
多胎ダミー	0.910	*** 0.000	2.484
第1回時の母親の年齢	0.002	0.659	1.002
出産前学生+有職ダミー	-0.043	0.153	0.958
現在学生+有職ダミー	-0.149	* 0.028	0.862
現在求職中ダミー	0.477	*** 0.000	1.612
父=保育担当ダミー	-0.447	*** 0.000	0.640
祖父母同居ダミー	-0.005	0.919	0.995
保育外注ダミー	0.152	* 0.046	1.164
相談者ありダミー	-1.838	*** 0.000	0.159
定数	-0.871	*** 0.000	0.419
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.013		
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.034		

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

その他、多胎児の場合の他、兄姉がいる場合に選択率が高く、子育てが長期に及んでいるためかもしれない。また、調査時点で求職中の場合も選択率が高く、仕事を探しながら決まっていなかったことが心理的負担感にも影響しているようである。

「目が離せないのが気が休まらない」

表15 子育ての負担感の回帰分析(目が離せないのが気が休まらない)  
(第2回調査)

	目が離せないのが気が休まらない (N=35,119)		
	B	有意確率	Exp (B)
兄姉ありダミー	-0.029	0.241	0.971
弟妹ありダミー	0.259	*** 0.000	1.296
多胎ダミー	0.680	*** 0.000	1.974
第1回時の母親の年齢	0.019	*** 0.000	1.019
出産前学生+有職ダミー	0.006	0.651	1.006
現在学生+有職ダミー	-0.251	*** 0.000	0.778
現在求職中ダミー	0.047	0.228	1.048
父=保育担当ダミー	-0.123	*** 0.000	0.884
祖父母同居ダミー	0.019	0.491	1.020
保育外注ダミー	-0.323	*** 0.000	0.724
相談者ありダミー	-0.520	*** 0.000	0.595
定数	-0.496	*** 0.000	0.609
Cox & Snell R <sup>2</sup> 乗	0.015		
Nagelkerke R <sup>2</sup> 乗	0.021		

+p<0.1 \*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

第2回調査で加わった項目であるが、多胎児や弟妹がいる場合など、乳幼児が多い場合に選択率が高くなっている。また、兄姉の有無は有意ではないので育児経験はあまり関係していないようであるが、母親が若い方がやや選択率が高くなっている。

また、現調査時に学生や有職である場合、保育士・保育ママさんを頼んでいる場合が選択率が低く、子育てだけに時間と意識をとられない状況の方が選択率が低いと言える。また、祖父母の同居は関係していないが、ここでも父親の保育協力が負担感を下げる方向に働いている。

## まとめ

以上の分析事例は、育児不安等の先行研究を大きく逸脱していない。しかし、第1回と第2回で大きな違いはないものの、母親の調査時点での就業状況や、父親が保育担当者であるか否かといった点を中心に、差異が見られた。もちろん、モデルが同一ではないので、注意すべきではあるが、育児休業中であつたり母親自身も就業を考えていなかったりする出産半年後（第1回調査時）に比べて、出産1年半後（第2回調査時）となると、就業や周囲の援助に対して要求水準が変わってきているのであろう。第1回調査に含まれる項目は、第5回調査までは少なくとも、継続して含まれている。したがって、継続して分析をしていくことが重要であろう。

表16 第1回目調査と第2回目調査での負担感に関する項目の回答の変化

	子どもを育てている負担に思うことがある *		子育てによる身体への疲れが大きい		子育てで出費がかさむ		自分の自由な時間が持てない	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
第1回、第2回とも該当	26,881	73.3%	9,117	24.9%	6,384	17.4%	16,656	45.4%
第1回該当→第2回非該当	1,763	4.8%	5,472	14.9%	5,969	16.3%	3,823	10.4%
第1回非該当→第2回該当	4,521	12.3%	5,404	14.7%	3,431	9.4%	7,088	19.3%
第1回、2回とも非該当	2,604	7.1%	16,692	45.5%	20,901	57.0%	9,118	24.9%

注\*) 合計が100%ではないのは、第1回、2回どちらかが不詳のケースがあるため

(つづき)

	夫婦で楽しむ時間がない		仕事が多すぎて間に合わない		子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
第1回、第2回とも該当	4,630	12.6%	2,202	6.0%	767	2.1%
第1回該当→第2回非該当	3,976	10.8%	2,093	5.7%	1,381	3.8%
第1回非該当→第2回該当	4,275	11.7%	3,812	10.4%	1,497	4.1%
第1回、2回とも非該当	23,804	64.9%	28,578	77.9%	33,040	90.1%

また、今後、第1回目と第2回目での負担感の有無の変化の分析などを行って行くことが重要であろう。参考として、第1回、第2回とも回答者と保育担当者に母親が含まれる36,685 ケースについて、負担感に関する各項目に対する該当・非該当の変化を見たのが、表16である。回答の全般的な傾向に大きな変化はないが、「子育てで出費がかさむ」以外のすべての項目において、第1回目で非該当だったのに第2回目で該当とするケースが、その逆を上回っている。しかし、一方で、「子育てで出費がかさむ」「夫婦で楽しむ時間がない」「仕事が十分にできない」「子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」については、第1回目に該当とした人のうちの半数近い人が第2回目では非該当としている。このように、回答内容の変動が激しいので、変化の要因を分析して行くことが肝要と思われる。

### 参考文献

- 直井道子 2000「家意識と祖母の育児」江原由美子目黒依子・矢澤澄子編『少子化時代のジェンダーと母親意識』新曜社
- 柏木恵子・若松素子 1994「親となる」ことによる人格発達『発達心理学研究』5(1)
- 内閣府国民生活局『平成13年度国民生活白書』



付表1 子育ての負担感と回答者＝保育担当者＝母の属性のクロス表(第1回)

		子どもをもって負担に思うこと(第1回)				子どもをもって負担に思うことの内容(第1回)							
		負担に思うことがある	負担に思うことがない	不詳	子育てによる身体の疲れが大きい	子育てで出費がかさむ	自分の自由な時間が持てない	夫婦で楽しむ時間がない	仕事が多分にはできない	子育てが大変なことを理解してくれない	子どもが病気がちである	その他	
合計		42,029	33,455	8,355	219	16,565	14,369	23,311	9,813	5,117	2,497	1,423	2,609
		100.0%	79.6%	19.9%	0.5%	49.5%	43.0%	69.7%	29.3%	15.3%	7.5%	4.3%	7.8%
第1回時の兄弟の有無	兄弟なし	20,975	16,655	4,212	108	7,875	6,354	12,076	5,314	2,529	1,116	369	1,099
	兄弟あり	21,054	16,800	4,143	111	8,690	8,015	11,235	4,499	2,588	1,381	1,054	1,510
第1回時のきょうだい数	1人(本人のみ)	20,517	16,246	4,163	108	7,600	6,131	11,776	5,160	2,464	1,073	358	1,078
	2人	15,537	12,530	2,939	68	6,488	5,637	8,643	3,604	1,757	987	734	1,122
	3人以上	5,975	4,679	1,253	43	2,477	2,601	2,892	1,049	896	437	331	409
単胎・多胎の別	単胎	41,192	32,695	8,278	219	16,053	13,857	22,781	9,532	4,994	2,410	1,371	2,541
	双子	815	741	74	0	499	496	517	275	111	84	52	65
	3つ子	22	19	3	0	13	16	13	6	12	3	0	3
第1回時の母親の年齢	19歳以下	579	458	120	1	164	220	324	134	81	47	10	25
	20歳～24歳	5,143	4,052	1,062	29	1,616	1,937	2,851	1,284	646	330	170	263
	25歳～29歳	16,373	13,012	3,289	72	5,937	5,650	9,203	4,046	1,786	901	541	946
	30～34歳	14,733	11,773	2,877	83	6,289	4,868	8,188	3,315	1,726	886	542	1,026
	35～39歳	4,640	3,706	904	30	2,252	1,503	2,469	922	757	287	144	313
	40歳以上	561	454	103	4	307	191	276	112	121	46	16	36
出産1年前の就業状況	無職	18,434	14,790	3,559	85	8,058	6,805	10,271	4,294	1,204	1,157	737	1,244
	学生	502	401	97	4	152	170	289	150	70	31	9	34
	勤め(常勤)	13,051	10,267	2,709	75	4,646	3,836	7,395	3,225	1,853	668	366	749
	勤め(パート・アルバイト)	7,299	5,835	1,426	38	2,638	2,650	3,977	1,624	1,242	429	206	413
	自営業・家業	1,817	1,440	366	11	717	563	921	346	547	146	64	110
	内職	397	312	85	0	157	168	181	64	100	34	22	26
	その他	181	139	39	3	71	48	96	49	43	8	5	16
	不詳	348	271	74	3	126	129	181	61	58	24	14	16
出産半年後(第1回調査時)の就業状況	不詳	437	328	104	5	162	151	211	74	61	33	14	24
	仕事を探している	4,129	3,412	689	28	1,561	1,861	2,239	922	1,052	346	167	274
	探していない	27,511	21,947	5,441	123	11,276	9,251	15,627	6,581	2,004	1,527	827	1,677
	学生	76	60	16	0	34	28	47	26	12	4	3	5
	現在育児休業中	4,374	3,409	935	30	1,583	1,051	2,490	1,103	489	225	129	311
	勤め(常勤)	1,582	1,208	361	13	553	565	804	351	295	74	115	100
	勤め(パート・アルバイト)	1,535	1,220	307	8	527	664	707	309	430	101	74	90
	自営業・家業	1,816	1,424	382	10	692	566	911	349	577	145	74	96
	内職	458	363	93	2	137	194	224	75	166	36	16	21
	その他	111	84	27	0	40	38	51	23	31	6	4	11

(前ページの続き)

	合計	子どもをもって負担に思うこと(第1回)			子どもをもって負担に思うことの内容(第1回)								
		負担に思うことがある	負担に思うことがない	不詳	子育てによる身体の疲れが大きい	子育てで出費がかさむ	自分の自由な時間が持てない	夫婦で楽しむ時間がない	仕事で十分にできない	子育てが大変なことを理解してくれない	子どもが病気がちである	その他	
ふだんの保育者	お父さん	20003	15968	3960	75	7994	6797	11256	5014	2175	954	602	1280
		100.0%	79.8%	19.8%	0.4%	50.1%	42.6%	70.5%	31.4%	13.6%	6.0%	3.8%	8.0%
	おばあさん	8501	6671	1796	34	3196	2955	4709	1952	1231	450	319	488
		100.0%	78.5%	21.1%	0.4%	47.9%	44.3%	70.6%	29.3%	18.5%	6.7%	4.8%	7.3%
	おじいさん	3931	3067	851	13	1468	1317	2212	959	567	209	150	221
		100.0%	78.0%	21.6%	0.3%	47.9%	42.9%	72.1%	31.3%	18.5%	6.8%	4.9%	7.2%
	保育士	1115	911	197	7	439	507	537	243	278	91	136	84
	100.0%	81.7%	17.7%	0.6%	48.2%	55.7%	58.9%	26.7%	30.5%	10.0%	14.9%	9.2%	
保育ママさん	134	120	14	0	78	61	76	40	53	6	12	19	
	100.0%	89.6%	10.4%	0.0%	65.0%	50.8%	63.3%	33.3%	44.2%	5.0%	10.0%	15.8%	
その他	871	669	195	7	302	310	438	174	126	44	33	67	
	100.0%	76.8%	22.4%	0.8%	45.1%	46.3%	65.5%	26.0%	18.8%	6.6%	4.9%	10.0%	
同居者構成	父母のみ	16,240	13,030	3,127	83	6,258	4,906	9,492	4,268	1,893	810	270	863
		100.0%	80.2%	19.3%	0.5%	48.0%	37.7%	72.8%	32.8%	14.5%	6.2%	2.1%	6.6%
	父母と双子・三つ子のきょうだいがいる(兄弟はいない)	317	276	41	0	188	146	208	109	40	28	8	15
		100.0%	87.1%	12.9%	0.0%	68.1%	52.9%	75.4%	39.5%	14.5%	10.1%	2.9%	5.4%
	父母と兄弟	15,944	12,845	3,020	79	6,882	6,102	8,591	3,461	1,818	960	785	1,202
		100.0%	80.6%	18.9%	0.5%	53.6%	47.5%	66.9%	26.9%	14.2%	7.5%	6.1%	9.4%
	父母と母方の祖父母	2,233	1,687	530	16	786	792	1,171	503	329	120	96	112
		100.0%	75.5%	23.7%	0.7%	46.6%	46.9%	69.4%	29.8%	19.5%	7.1%	5.7%	6.6%
	父母と父方の祖父母	6,161	4,727	1,407	27	2,065	1,961	3,279	1,365	804	505	202	339
		100.0%	76.7%	22.8%	0.4%	43.7%	41.5%	69.4%	28.9%	17.0%	10.7%	4.3%	7.2%
	父母と祖父母	28	21	7	0	9	13	13	4	3	2	0	2
		100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	42.9%	61.9%	61.9%	19.0%	14.3%	9.5%	0.0%	9.5%
	父母とその他	196	151	42	3	62	73	91	42	30	8	5	16
		100.0%	77.0%	21.4%	1.5%	41.1%	48.3%	60.3%	27.8%	19.9%	5.3%	3.3%	10.6%
母のみ又は母ときょうだいのみ	357	281	69	7	137	138	171	17	87	27	22	24	
	100.0%	78.7%	19.3%	2.0%	48.8%	49.1%	60.9%	6.0%	31.0%	9.6%	7.8%	8.5%	
母と祖父母等	550	434	112	4	177	237	294	44	113	37	34	35	
	100.0%	78.9%	20.4%	0.7%	40.8%	54.6%	67.7%	10.1%	26.0%	8.5%	7.8%	8.1%	
その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
不詳	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
育児の悩み相談者の有無	相談する	40,469	32,478	7,860	131	16,139	13,957	22,683	9,575	4,944	2,359	1,402	2,518
		100.0%	80.3%	19.4%	0.3%	49.7%	43.0%	69.8%	29.5%	15.2%	7.3%	4.3%	7.8%
	誰にも相談しない	333	295	37	1	165	151	203	96	74	105	12	40
	100.0%	88.6%	11.1%	0.3%	55.9%	51.2%	68.8%	32.5%	25.1%	35.6%	4.1%	13.6%	
不詳	1,227	682	458	87	261	261	425	142	99	33	9	51	
	100.0%	55.6%	37.3%	7.1%	38.3%	38.3%	62.3%	20.8%	14.5%	4.8%	1.3%	7.5%	

付表2 子育ての負担感と回答者＝保育担当者＝母の属性のクロス表(第2回)

		子どもをもって負担に思うこと(第2回)				子どもをもって負担に思うことの内容(第2回)									
		負担に思うことがある	負担に思うことがない	不詳	子育てによる身体が大きい	子育てで出費がかさむ	自分の自由な時間が持たない	夫婦で楽しむ時間がない	仕事が多分できない	子育てが大変なことを理解してくれない	子どもが病気がちである	目が離せないで気が休まらない	その他		
合計	合計	39,310	33,745	4,728	837	15586	10495	25382	9555	6430	2412	2431	13393	1591	
		100.0%	85.8%	12.0%	2.1%	46.19	31.10	75.22	28.32	19.05	7.15	7.20	39.69	4.71	
第2回時のきょうだい構成	兄弟あり姉妹あり	432	346	69	17	152	153	238	106	62	27	40	164	18	
		100.0%	80.1%	16.0%	3.9%	43.9%	44.2%	68.8%	30.6%	17.9%	7.8%	11.6%	47.4%	5.2%	
	兄弟あり姉妹なし	19,718	16,905	2,359	454	8,229	5,888	12,521	4,445	3,471	1,340	1,532	6,744	764	
		100.0%	85.7%	12.0%	2.3%	48.7%	34.8%	74.1%	26.3%	20.5%	7.9%	9.1%	39.9%	4.5%	
	兄弟なし姉妹あり	1,147	1,004	128	15	433	343	747	368	134	74	51	455	39	
	100.0%	87.5%	11.2%	1.3%	43.1%	34.2%	74.4%	36.7%	13.3%	7.4%	5.1%	45.3%	3.9%		
第1回時の母親の年齢	19歳以下	428	358	57	13	135	118	274	106	88	31	19	163	13	
		100.0%	83.6%	13.3%	3.0%	37.7%	33.0%	76.5%	29.6%	19.0%	8.7%	5.3%	45.5%	3.6%	
	20歳～24歳	4,385	3,755	544	86	1,498	1,299	2,766	1,176	716	279	256	1,519	143	
		100.0%	85.6%	12.4%	2.0%	39.9%	34.6%	73.7%	31.3%	19.1%	7.4%	6.8%	40.5%	3.8%	
	25歳～29歳	15,330	13,151	1,881	298	5,523	4,226	9,931	4,021	2,351	867	976	4,899	636	
	100.0%	85.8%	12.3%	1.9%	42.0%	32.1%	75.5%	30.6%	17.9%	6.6%	7.4%	37.3%	4.8%		
出産半年後(第1回調査時)の就業状況	仕事を探している	3,533	3,059	403	71	1,335	1,241	2,205	830	987	259	274	1,194	122	
		100.0%	86.6%	11.4%	2.0%	43.6%	40.6%	72.1%	27.1%	32.3%	8.5%	9.0%	39.0%	4.0%	
	探していない	26,470	22,856	3,087	527	10,752	6,907	17,577	6,623	2,905	1,653	1,243	9,586	1,085	
		100.0%	86.3%	11.7%	2.0%	47.0%	30.2%	76.9%	29.0%	12.7%	7.2%	5.4%	41.9%	4.7%	
	学生	67	55	11	1	24	21	35	21	13	3	7	16	3	
	100.0%	82.1%	16.4%	1.5%	43.6%	38.2%	63.6%	38.2%	23.6%	5.5%	12.7%	29.1%	5.5%		
出産1年半後(第2回調査時)の就業状況	現在育児休業中	3,553	3,041	425	87	1,393	719	2,294	890	873	163	432	880	182	
		100.0%	85.6%	12.0%	2.4%	45.8%	23.6%	75.4%	29.3%	28.7%	5.4%	14.2%	28.9%	6.0%	
	勤め(常勤)	1,624	1,339	240	45	570	470	949	369	378	75	162	402	58	
		100.0%	82.5%	14.8%	2.8%	42.6%	35.1%	70.9%	27.6%	28.2%	5.6%	12.1%	30.0%	4.3%	
	勤め(パート・アルバイト)	1,461	1,219	213	29	528	461	809	288	446	82	126	424	49	
		100.0%	83.4%	14.6%	2.0%	43.3%	37.8%	66.4%	23.6%	36.6%	6.7%	10.3%	34.8%	4.0%	
	自営業・家業	1,678	1,414	222	42	651	416	991	350	593	120	113	573	48	
		100.0%	84.3%	13.2%	2.5%	46.0%	29.4%	70.1%	24.8%	41.9%	8.5%	8.0%	40.5%	3.4%	
	内職	413	353	52	8	138	136	227	89	145	25	30	142	15	
		100.0%	85.5%	12.6%	1.9%	39.1%	38.5%	64.3%	25.2%	41.1%	7.1%	8.5%	40.2%	4.2%	
	その他	105	85	19	1	46	35	63	21	30	6	13	36	8	
		100.0%	81.0%	18.1%	1.0%	54.1%	41.2%	74.1%	24.7%	35.3%	7.1%	15.3%	42.4%	9.4%	
	不詳	406	324	56	26	149	89	232	74	60	26	31	140	21	
	100.0%	79.8%	13.8%	6.4%	46.0%	27.5%	71.6%	22.8%	18.5%	8.0%	9.6%	43.2%	6.5%		
出産1年半後(第2回調査時)の就業状況	家事(専業)	26,257	22,708	3,006	543	10,744	6,894	17,617	6,632	2,806	1,676	1,133	9,621	1,058	
		100.0%	86.5%	11.4%	2.1%	47.3%	30.4%	77.6%	29.2%	12.4%	7.4%	5.0%	42.4%	4.7%	
	無職	1,810	1,580	201	29	710	539	1,153	418	287	125	110	671	78	
		100.0%	87.3%	11.1%	1.6%	44.9%	34.1%	73.0%	26.5%	18.2%	7.9%	7.0%	42.5%	4.9%	
	学生	62	50	12	0	26	21	34	16	17	4	10	17	3	
		100.0%	80.6%	19.4%	0.0%	52.0%	42.0%	68.0%	32.0%	34.0%	8.0%	20.0%	34.0%	6.0%	
	勤め(常勤)	4,852	4,070	656	126	1,837	1,123	2,992	1,161	1,190	227	626	1,149	226	
		100.0%	83.9%	13.5%	2.6%	45.1%	27.6%	73.5%	28.5%	29.2%	5.6%	15.4%	28.2%	5.6%	
	勤め(パート・アルバイト)	3,696	3,109	508	79	1,269	1,235	2,060	786	1,163	203	392	1,057	136	
		100.0%	84.1%	13.7%	2.1%	40.8%	39.7%	66.3%	25.3%	37.4%	6.5%	12.6%	34.0%	4.4%	
	自営業・家業	1,748	1,473	236	39	684	397	1,020	368	654	122	115	599	57	
		100.0%	84.3%	13.5%	2.2%	46.4%	27.0%	69.2%	25.0%	44.4%	8.3%	7.8%	40.7%	3.9%	
	内職	577	505	64	8	197	191	333	111	243	41	24	186	19	
	100.0%	87.5%	11.1%	1.4%	39.0%	37.8%	65.9%	22.0%	48.1%	8.1%	4.8%	36.8%	3.8%		
その他	119	99	19	1	57	45	66	23	37	3	6	33	9		
	100.0%	83.2%	16.0%	0.8%	57.6%	45.5%	66.7%	23.2%	37.4%	3.0%	6.1%	33.3%	9.1%		
不詳	189	151	26	12	62	50	107	40	33	11	15	60	5		
	100.0%	79.9%	13.8%	6.3%	41.1%	33.1%	70.9%	26.5%	21.9%	7.3%	9.9%	39.7%	3.3%		
出産1年半後(第2回調査時)の就業状況2	学生・有職	11,054	9,306	1,495	253	4,070	3,012	6,505	2,465	3,304	600	1,173	3,041	450	
		100.0%	84.2%	13.5%	2.3%	43.7%	32.4%	69.9%	26.5%	35.5%	6.4%	12.6%	32.7%	4.8%	
	仕事を探している	3,400	3,041	288	71	1,300	1,274	2,272	818	1,058	327	226	1,265	160	
		100.0%	89.4%	8.5%	2.1%	42.7%	41.8%	74.7%	26.9%	34.8%	10.8%	7.4%	41.6%	5.3%	
探していない	22,395	19,340	2,622	433	9,226	5,566	15,067	5,706	1,778	1,319	928	8,181	880		
	100.0%	86.4%	11.7%	1.9%	47.7%	28.8%	77.9%	29.5%	9.2%	6.8%	4.8%	42.3%	4.6%		
不詳	2,461	2,058	323	80	990	643	1,538	566	290	166	104	906	101		
	100.0%	83.6%	13.1%	3.3%	48.1%	31.2%	74.7%	27.5%	14.1%	8.1%	5.1%	44.0%	4.9%		

(前ページの続き)

		子どもをもって負担に思うこと(第2回)			子どもをもって負担に思うことの内容(第2回)												
		負担に思うことがある	負担に思うことがない	不詳	子育てによる身体の疲れが大きい	子育てで出費がかさむ	自分の自由な時間が持てない	夫婦で楽しむ時間が少ない	仕事が多分にかたがたにできない	子育てが大変なことを理解してくれない	子どもが病気がちである	目が離せないので気が休まらない	その他				
	合計																
ふだんの保育者	お父さん	20221	17395	2423	403	8140	5380	13181	5317	3168	955	1277	6574	817			
		100.0%	86.0%	12.0%	2.0%	46.8%	30.9%	75.8%	30.6%	18.2%	5.5%	7.3%	37.8%	4.7%			
	母の母親	5854	4918	813	123	2238	1527	3578	1226	1137	269	410	1932	236			
		100.0%	84.0%	13.9%	2.1%	45.5%	31.0%	72.8%	24.9%	23.1%	5.5%	8.3%	39.3%	4.8%			
	母の父親	2244	1857	346	41	857	583	1368	478	446	108	151	732	88			
		100.0%	82.8%	15.4%	1.8%	46.1%	31.4%	73.7%	25.7%	24.0%	5.8%	8.1%	39.4%	4.7%			
	父の母親	4625	3903	626	96	1639	1151	2942	1168	821	237	267	1533	160			
		100.0%	84.4%	13.5%	2.1%	42.0%	29.5%	75.4%	29.9%	21.0%	6.1%	6.8%	39.3%	4.1%			
	父の父親	2001	1678	283	40	718	477	1270	512	330	101	107	641	79			
		100.0%	83.9%	14.1%	2.0%	42.8%	28.4%	75.7%	30.5%	19.7%	6.0%	6.4%	38.2%	4.7%			
保育士	6401	5408	819	174	2474	1992	3635	1461	1946	379	1064	1572	291				
	100.0%	84.5%	12.8%	2.7%	45.7%	36.8%	67.2%	27.0%	36.0%	7.0%	19.7%	29.1%	5.4%				
保育ママさん	175	154	17	4	94	59	101	57	71	9	19	56	10				
	100.0%	88.0%	9.7%	2.3%	61.0%	38.3%	65.6%	37.0%	46.1%	5.8%	12.3%	36.4%	6.5%				
その他	896	721	145	30	296	270	510	203	203	41	56	278	49				
	100.0%	80.5%	16.2%	3.3%	41.1%	37.4%	70.7%	28.2%	28.2%	5.7%	7.8%	38.6%	6.8%				
保育士等の利用	利用せず	32,782	28,227	3,895	660	13,047	8,462	21,676	8,057	4,441	2,025	1,357	11,776	1,294			
		100.0%	86.1%	11.9%	2.0%	46.2%	30.0%	76.8%	28.5%	15.7%	7.2%	4.8%	41.7%	4.6%			
利用する	6,528	5,518	833	177	2,539	2,033	3,706	1,498	1,989	387	1,074	1,617	297				
	100.0%	84.5%	12.8%	2.7%	46.0%	36.8%	67.2%	27.1%	36.0%	7.0%	19.5%	29.3%	5.4%				
同居者構成	父母のみ	14,209	12,357	1,579	273	5,550	3,257	9,574	3,896	2,118	743	632	4,780	607			
		100.0%	87.0%	11.1%	1.9%	44.9%	26.4%	77.5%	31.5%	17.1%	6.0%	5.1%	38.7%	4.9%			
	父母ときょうだいのみ	15,943	13,729	1,838	376	6,832	4,882	10,196	3,759	2,615	1,044	1,184	5,463	632			
		100.0%	86.1%	11.5%	2.4%	49.8%	35.6%	74.3%	27.4%	19.0%	7.6%	8.6%	39.8%	4.6%			
	父母と母方の祖父母	2,123	1,764	315	44	782	572	1,285	471	372	117	152	733	81			
		100.0%	83.1%	14.8%	2.1%	44.3%	32.4%	72.8%	26.7%	21.1%	6.6%	8.6%	41.6%	4.6%			
	父母と父方の祖父母	5,783	4,879	793	111	1,976	1,435	3,664	1,345	943	432	314	2,008	210			
		100.0%	84.4%	13.7%	1.9%	40.5%	29.4%	75.1%	27.6%	19.3%	8.9%	6.4%	41.2%	4.3%			
	父母と祖父	11	8	2	1	6	2	4	2	2	2	1	2	0			
		100.0%	72.7%	18.2%	9.1%	75.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%			
	父母とその他	155	126	28	1	56	45	79	42	34	9	12	46	6			
	100.0%	81.3%	18.1%	0.6%	44.4%	35.7%	62.7%	33.3%	27.0%	7.1%	9.5%	36.5%	4.8%				
母のみ又は母ときょうだ	458	391	55	12	198	146	252	15	166	34	84	146	24				
	100.0%	85.4%	12.0%	2.6%	50.6%	37.3%	64.5%	3.8%	42.5%	8.7%	21.5%	37.3%	6.1%				
母と祖父母等	627	491	117	19	186	156	328	25	180	31	52	215	31				
	100.0%	78.3%	18.7%	3.0%	37.9%	31.8%	66.8%	5.1%	36.7%	6.3%	10.6%	43.8%	6.3%				
その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
同居者構成の変化	第1回から祖父母と別居	29,895	25,842	3,410	643	12,277	8,058	19,527	7,483	4,764	1,760	1,847	10,128	1,229			
		100.0%	86.4%	11.4%	2.2%	47.5%	31.2%	75.6%	29.0%	18.4%	6.8%	7.1%	39.2%	4.8%			
	祖父母と別居 → 同居	1,224	1,008	181	35	417	305	743	258	216	87	89	397	49			
		100.0%	82.4%	14.8%	2.9%	41.4%	30.3%	73.7%	25.6%	21.4%	8.6%	8.8%	39.4%	4.9%			
	第1回から祖父母と同居	7,295	6,113	1,043	139	2,523	1,852	4,528	1,584	1,271	494	427	2,550	273			
		100.0%	83.8%	14.3%	1.9%	41.3%	30.3%	74.1%	25.9%	20.8%	8.1%	7.0%	41.7%	4.5%			
祖父母と同居 → 別居	890	776	94	20	367	278	578	226	178	71	67	314	39				
	100.0%	87.2%	10.6%	2.2%	47.3%	35.8%	74.5%	29.1%	22.9%	9.1%	8.6%	40.5%	5.0%				
不詳	6	6	0	0	2	2	6	4	1	0	1	4	1				
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%				
育児の悩み相談者の有無	相談する	37,029	32,526	4,408	95	15,089	10,131	24,558	9,294	6,161	2,257	2,351	12,928	1,524			
		100.0%	87.8%	11.9%	0.3%	46.4%	31.1%	75.5%	28.6%	18.9%	6.9%	7.2%	39.7%	4.7%			
	誰にも相談しない	377	351	24	2	188	134	254	83	111	114	38	181	27			
		100.0%	93.1%	6.4%	0.5%	53.6%	38.2%	72.4%	23.6%	31.6%	32.5%	10.8%	51.6%	7.7%			
不詳	1,904	868	296	740	309	230	570	178	158	41	42	284	40				
	100.0%	45.6%	15.5%	38.9%	35.6%	26.5%	65.7%	20.5%	18.2%	4.7%	4.8%	32.7%	4.6%				

### III. 資料編

## 1 縦断調査実施と分析に関する検討

パネル調査のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究

### 第1回企画委員会議事録

1 日時：平成16年7月2日（金）午前11時～午後1時

2 場所：国立社会保障・人口問題研究所 第4会議室

3 出席者（11名）：

委員（五十音順）

阿藤 誠 国立社会保障・人口問題研究所 所長

津谷 典子 慶応大学経済学部 教授

中田 正 日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社 副理事長（年金研究所担当）

参与

村山 令二 厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健統計課長

西山 裕 同 社会統計課長

大橋 正 同 国民生活基礎調査室長

調査担当

北島 和久 厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健統計課 課長補佐

上田 響 同 国民生活基礎調査室 室長補佐

後藤 敬一郎 同 国民生活基礎調査室 室長補佐

増田 恵己子 同 人口動態・保健統計課 縦断調査専門官

司会

金子 隆一 国立社会保障・人口問題研究所 企画部第4研究室長（開発研究主任研究者）

4 配布資料：

（資料1） 厚生労働省の縦断調査の概要

（資料2） 研究の概要及び作業工程

（資料3） 調査の概況（出生児調査について、過去2回公表分及び人口動態職業・産業調査とのリンケージ分析報告。成年者調査について、過去1回公表分）及び調査票（出生児調査について、過去3回実施分及び成年者調査について、過去2回実施分）

5 議題及び議事：

（大橋国民生活基礎調査室長挨拶）

〔概要〕厚生労働省の二つの縦断調査は回を重ねてデータを蓄積しており、縦断調査としての分析手法や適切なデータ管理法を確立することの重要性が増している。当研究におい

てそれがシステムとして開発されることは時宜にかなったことで成果に期待しており、よろしくお願ひ申し上げます。

(厚生労働省の縦断調査の概要)

調査担当の上田が、資料 2 によって厚生労働省の二つの縦断調査の概要について説明した。

(開発研究)

プロジェクトの主任研究者である金子議長が、資料 3 により「パネル調査のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究」の目的、本年度の進め方及び推進体制について報告した。

[質疑]

(中田) データマネジメントという言葉について、これは脱落したものをどうするか、ということだと考えてよいのか。

(金子) それだけではなく、技術的なことも含めて、つまり、データファイルをどのように組立てていくべきか、いろいろな方法があり、縦断調査に限ってはどのような方法が適切かということも含めた広い意味で考えている。もちろん脱落があつて個票データがとぎれてしまう場合、それをどう扱うかということもある。

(中田) データの分析もいろいろな方法があり、ここでやるということも重要だが全部やるわけにはいかない、それよりもデータをオープンにして研究者にやってもらう、そのほうが役所にとってもよいと思われるが、データをオープンにするお考えはあるのか。

(大橋) 現時点ではそれほどデータは蓄積されていないことでもあり、また、成年者調査については第 1 回目については脱落を含めて変なデータがあり、クリーニングしなければそのまま提供することはできない。統計調査のデータは国民共有の財産だから一定の手続を経れば提供できるが、現時点ですぐというわけにはいかない。分析手法がこの研究で確立されてから、つまり数年後には、個票ベースでの提供を考えている。ただし、収集した生の個票データではなく、クリーニングしたデータということになる。

(中田) 日本の場合は変なデータは出したくないということがあるようだが、アメリカのミシガン大学が高齢者の調査をやっている、そのデータは登録すれば誰でも使える、変なデータはあるけれども使う人が自分で責任を持って使ってくれということになっている。

(大橋) 日本では統計は目的外では使っていけないということになっている、使う場合は統計法で公益性とか学術のためということになっている、統計法の枠の中では現時点では変なデータをそのまま使って貰うことにはならない。縦断調査は承認統計だが、承認統計も指定統計に準じて行われることになる。

(津谷) この研究は、分析をやってみるというよりも、まず、分析のための分析法や、データ管理、データ構築をまずやってみる、ということだと理解している。

アメリカと日本の違いだが、日本の役所の肩を持つわけではないけれども、日本には統計法があるが向こうにはない、加えて、日本の官僚組織、日本の大学の成り立ち、と違っている面がある。統計法の縛りや制限を外国の方に理解してもらうのは難しい。日本ではそういう法律がある以上従わねばならない。ミシガン大学の研究についていえば、NIH (the National Institutes of Health) の NIA (the National Institute on Aging) が大学にお金を出している、そこからお金が出ている以上公開しなければならない。データを公開して使ってもらえれば使ってもらえるだけよいということになる。データを出さなきゃいけない、出すためにはコードブックも出す必要がある、そうした事務を処理する事務局が必要で、そのためにも相当のお金が出ている。お金をとってきて調査をやって、データマネジメントをやったということに対する研究者や大学職員の reward が名誉もそうだがお金もそうだ。そういうシステムがあるので、調査にもよるが、調査をやってデータを作ったということでアカデミックな業績になる。それを使って論文が出てくればさらにすばらしい、ということになる。日本人が行っても公的サービスとしてデータは出してもらえる。日米で環境がこのように違って、変えていかなければとも思うが、では、日本がアメリカのようになれるかということ、統計法の問題があり、官庁の組織の問題があり、大学のあり方が違っているということもあって難しいと思う。長期的な目で見れば変わっていくであろうとは思っている。

(金子) 具体的なデータマネジメントについてはどのようなことが考えられるか。

(津谷) データマネジメントについては、ファイルの作り方だが、**person year** でいくのか、それとも同じ人間にどんどんデータをくっつけていくのか、今は **logical data length** は制限がないのでいくら長くしてもかまわない、ただ個人レベルの情報と **household** レベルの情報をどのように管理していくのか、配偶者が出てきたときに、**primary respondent** にくっつけていくのか、配偶者は配偶者で別に管理していくのかいろいろあると思う、しかし、一回決めたらそれをずっと維持していく。

(大橋) 成年者調査では、配偶者は常に **primary respondent** とペアで管理している。

(津谷) データマネジメントでは、データをどのように **share** していくのか、だれが具体的に責任をもってやっていくのか、というのも重要である。本庁の人もメインの仕事をかかえていてきちんとできるのか、いったんやりだせばきちんとできると思うけれども、やはりどういうふうに行ったかを実施者から聞くのが良いと思う。アメリカの **census bureau** では人がどんどん入れ替わっているので難しいが、**Larry Bumpass** という人が **NSFH** (the National Survey of Families and Households) の調査をやっていて、今 3 回が終わっていて、3 回目は 11 億ぐらいかかった大規模な調査、そういう調査をやってきた人と呼んだらどうか。来ても



らえるなら呼んで、いろいろ訊く、あるいはこういうところでしゃべってもらえばよいのではないか。被調査者の追跡、捕捉のノウハウも、日本みたいに住民基本台帳がないのもすごく苦勞してきたわけで、学ぶことができる。あんなに複雑な社会で実際にやった、もちろんお金の桁もちがうけれども、実際に調査をやった、実際にデータ管理をやった総元締めの人をよんで話を訊くというのが一番だと思う。

(大橋) この研究費では、行くことはできるが呼ぶことはできない。

(金子) データマネジメントを担当している人を **Bumpass** から紹介してもらおうと思っていた。

(津谷) 次にパネルデータ特有のデータ構造について、今、シカゴ大学の山口一男先生が日本に居て、パネルデータの分析を大学院生を対象に教えていらっしゃる。数理統計をやってらっしゃる方であって、講義で学生に配布した資料はいただいでいて、どういうソフトウェアを使ったのかも書いてある。山口先生がいつまで日本にいるかわからないが、ここに来ていただいて2,3回社人研と本庁と関係者の方に聞いていただければよいのではないか。もし話をつけるといことならお話をさせていただく。家計研調査とは比べ物にはならない大規模な調査なのだから、よい結果を出せる調査として意見をお訊きすればよい。

(金子) 昨年12月にお会いしてこのプロジェクトのお話はした。もしかしたらご協力をお願いしたいというお話はした。

(阿藤) 東大の秋山先生も日本では数少ない縦断調査をご存知の方だ。

(津谷) もうひとつ、高齢者はほとんど動かないから苦勞がない調査であるが、新生児もべつにして、中年、特に成年者はフォローアップが難しい調査である、NLSY (National Longitudinal Survey of Youth) という調査があるが、これは1971年に始まった調査で、当時10代から20代半ばの人を30年以上追いかけている、つまり一番若いところだった人が現在は出産可能な最後の所にきている調査。情報がダウンロードできるから、どういうデータかわかる、どういうふうに捕捉したかということまではわからないけれども、まずネットで調べると、回収率もわかる。向こうでは法律的な関係がそうになっているからデータをすぐに出さなければいけないから、実施者はそういう管理をしている。成年者調査と対象としても同じだから、比較するのであればこの調査について実施主体に問い合わせるのが一番よい。

(金子) そのようにしたいと思う。

(津谷) 分析についてであるが、第1waveは **probability sample** だから、本庁で情報をお持ちのはず、つまり住民基本台帳の情報もあるし、国民生活基礎調査の情報もあるので、**analysis of nonresponse** をやられたらどうか、すなわち、回収率について出生児調査で10%、成年者調査で10数%の **nonrespondent** があるので、

ももとのデータがあるのだからどういう人が答えなかったのか、それを調べるのは意義がある。回収率が9割あれば問題ないかとも思うがだんだん落っこちていくので、分析してみられた方がよい。お勧めする。

(大橋) 成年者調査は、データはあるのでおっしゃるとおり分析は可能である。

(津谷) 引越しのような脱落という問題が起こってくるということであるが、そういうケースも分析をおやりになるべきであるが、ハザード分析をやれば対処できる、ただそこまで行く前に、脱落した人々ごとに理由がわかっているならば、理由別におやりになれば、後々フォローアップできる、なぜならランダムに脱落は生じないはずだから。

次に第1 wave で回収でき第2 wave で回収できなかった、こういう人についてはあきらめないで復活させる、ということもある。引越してしまったりしたときのように、どうしようもない場合があるが、一時的に入院してたとか、という場合は、一年しか間がないので、すぐにあきらめないで、復活させるということが大事。遡ってデータを使える可能性もある。

(大橋) 成年者調査は、復活はある程度している。

(北島) 出生児調査では、第2回に回答がなかった客体(約2800)に対して第3回の調査票を配布したところ約40%弱を回収した。

(津谷) 赤ちゃんの調査については、成年者は聞いているが、子供が小さいときに、今赤ちゃんは3歳半になっているから、ちょっと遅いかもかもしれないが、育てるほうに子供がほしいか、子育ての苦労があるときに子供が欲しいかという質問をしておくべきだったのではないか、育てる側では子供を持つことに夢がもてないという意見が多いときに、こう質問することは大事なので、ちょっとおそいかもしいけれども聞いて欲しい。

(大橋) 総務省が、成年者調査と出生児調査とのすみ分けの問題があるので、承知しないと思う。

(津谷) 今、1.29という数字がでていて、一番それを訊いたらよいと思われる子育ての真っ最中にある人たちなのだが・・・。

(大橋) 成年者もそのうち子どもを産むだろうからそこで調査すればよいというのが総務省の言い分。

(阿藤) 出生動向調査とのすみわけは・・・？

(大橋) それもあるにはあるが、横断調査と縦断調査なのでそれほど問題にならない。

(津谷) 成年者調査については、子どもを持つことについて、夫婦間の意識のずれが最も重要な問題だと思うので、同じ意識について両者に訊いてもらいたい。少子化の原因につながることに、その意識についてまったく同じ質問を、ワーディングを変えずに両方にきいてもらいたい。大学の学生を見ても結婚に関する期待

感が男女で違っている。

- (大橋) 結婚後及び出産後の女性の就業継続については、女性票でしか質問していないがこれを男性にも質問することについて検討させていただきたい。
- (津谷) 脱落に対しての補充はしないのか？
- (金子) 科学的な観点から、縦断調査だから別のプロジェクトになってしまうから、一つの調査研究として補充というのは考えられない。
- (阿藤) 脱落した人が、30年くらい経ってコホート調査の意義がアップールして、復活するという可能性もある。
- (北島) 出生児調査では、脱落は、政策的に支援をしてあげたい片親、一人親とか、学歴が低いとかに多くなっている。50%くらいになると、ほとんど問題のない平均的な人が残った状態になるのではないか。
- (金子) 調査をどこまで続けられるかは、脱落をどこまで食い止められるかにかかっている。半分とか、3割とかになってしまうと分析に堪えられない。選択的な脱落をカバーする統計的な方法は無力なので、調査実施側で努力していただくしかない。
- (大橋) 高齢者に関する調査では50代をターゲットにした調査はあるだろうか？50代は厚生労働省の直接政策の対象とはなっていない世代なので今までなかった。
- (金子) がんセンターでやっている多目的コホート分析プロジェクトというのがある、地域限定で、悉皆でやっている。10年で3回くらいやっていて、死亡、あるいはがんの登録が発生した時点で、イベントベースで情報があがってくる。亡くなるまで追跡している。生活習慣と患者との関係を分析しているというふうにかがっている。
- (津谷) 一般人の50代をコホートとして全国ベースでやっているというのは無いと思う。調査があるかどうか、あるのならばどういう目的で行われているか調べてみる。
- (西山) 中高年を考えてみると、見方として団塊の世代というのはひとつあるが、50代というのはなんだろうと考えている。厚生行政の場合は、年取ると老人医療とか介護保険とかあるが、50代というのは年齢として出てこない。10年20年と見ていくとすればどこにポイントを置いたらいいのか、20年以上経って後期高齢者になってしまう前に、50代のすごし方でその後どう影響が出てくるのか調査してみたい。
- (中田) 50代というのは年金制度でいえばすごく大事な世代。年金の給付レベルをどう考えるか、実証データに基づくレベルのチェックが大事だと思う。現在の改革案では、50%支給となっているが、それでどの程度の暮らしができるのか、足りない分は別の形のお金が必要となる。この先十年間では給付レベルはそれほど下がらないがそれでも下がったときにどうするかの問題があり、50代の人そういうところにぶつかっている。

(津谷) 中長期的には、データを一部加工するにしても出すということであったが、データ間のリンクで、出生児のデータは人口動態統計とリンクされているが、それも出すというふうに理解してよろしいか。

(金子) 目的外申請をして、通れば使えるということになる。人口動態調査という国民に起きたことすべてを把握するようなデータがあるのだから、それと縦断調査のような調査とをリンクさせるということは非常に大きな武器になるので、そういう活用の道も模索していきたい。このプロジェクトでは若い研究者が中心になってデータを利用していくことになるので、成果が示せれば新しいデータ有効活用の形ができていくのではないかと期待される。

以上